

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 大蔵 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

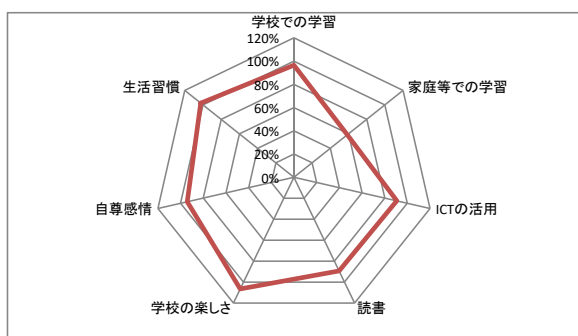
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える問題や、人物像や物語の全体像を具体的に想像する問題において、成果が見られた。一方で、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える問題や、表現の効果を考える問題で、課題が見られた。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	話し合いにおける発言の理由として適切なものを選択する問題、物語から伝わってくることを考える問題	下回っている
	努力が必要な問題	登場人物の気持ちとして適切なものを選択する問題、文章中の表現の効果を考えて、適切な語句を選択する問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述する問題において、成果が見られた。一方で、正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察して記述する問題で、課題が見られた。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	果汁が百分率で表された、飲み物の量の求め方を考える問題、割合を調べるためのグラフを見て、分量を求める問題	下回っている
	努力が必要な問題	飲み物について、百分率で表された果汁の量を求める問題、示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	提示された情報を、複数の視点で分析して解釈し、自分の考えを持つための問題において、成果が見られた。一方で、実験器具の正しい扱い方を問う問題や、実験で得た結果を、問題の視点で分析して、自分の考えをもち、その内容を記述する問題で、課題が見られた。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	資料を基に、昆虫の特徴について表を整理する問題、継続して同じ条件で実験を行うために、その方法を見直して新たな手順について考える問題	下回っている
	努力が必要な問題	実験に使う器具の名称を書く問題、実験器具の正しい読み取り方や扱い方について答える問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・学校に来ることを楽しいと感じている児童は多く、困った人を進んで助けたり友達と協力できる児童や、いじめは絶対に許されないと考えている児童が多い。 ・ICTの活用、読書の取組については、全国平均を下回ったが、学校として積極的に取り組み、昨年度より改善傾向にある。 ・学校での学習や、生活習慣は確立しているものの、家庭で自分で計画を立てて学習することや学習時間について課題がみられる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・引き続き授業でのICT機器の活用を推進し、児童が理解を深めたり自身の考えを表出したりできるようにする。
- ・各教科の授業において、自分の考えを説明したり、まとめたことを記述したりする活動を重視する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・学習の行い方や時間など、家庭での学習習慣の確立を目指し、学校通信等を用いて、家庭学習の啓発・推進を行う。